

KADOKAWAとnote、資本業務提携を締結

～創作活動を支援する、次世代IP運用エコシステムの構築へ～

株式会社KADOKAWA（本社：東京都千代田区、取締役 代表執行役社長 CEO：夏野剛、以下KADOKAWA）と、note株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役 CEO：加藤貞顕、以下note）は、2026年3月24日、次世代のIP運用エコシステムを構築することを目的に、資本業務提携を締結しました。

デジタル化と生成AIの普及により、コンテンツ創作と流通の仕組みが大きく変わろうとしている中、クリエイターの作品がより多くの人に届き、収益を得て、創作活動を続けられる環境をつくるため、両社は創作から流通、収益化、権利保護までが一体となって循環する新しい仕組みづくりに取り組みます。



■資本業務提携の背景

KADOKAWAグループは「世界の才能と、感動をつなぐ、クリエイティブプラットフォームへ」をミッションに掲げ、世界中から才能を発掘して多彩なIP（Intellectual Property）を創出し、出版を起点にアニメ・実写映像、ゲーム、グッズなどグループの多角的なメディアで展開しています。さらに、創出したIPをテクノロジーの活用により世界中のユーザーに届ける「グローバル・メディアミックス with Technology」戦略のもと、IP価値の最大化を推進しています。

一方、noteは「だれもが創作をはじめ、続けられるようにする」をミッションに掲げ、クリエイターが文章・画像・音声・動画などのUGC（User Generated Contents）を投稿し、ユーザーがそれを楽しみ応援できるメディアプラットフォーム「note」を運営しています。現在（2025年11月末時点）会員登録者数1,114万人、公開コンテンツ数6,956万件を擁する日本有数のクリエイターエコノミープラットフォームへと発展し、今後はクリエイターの作品や活動がより広く社会に届く仕組みづくりを進めています。

このように、両社は、クリエイターによるコンテンツ創出とその「熱量」を最大化するプラットフォーム運営、そこから生まれるIPの開発において、高い親和性と共通のビジョンを有しています。

加えて、事業環境が大きく変化する中で、両社は持続的な成長の実現に向け、AIを基盤とした新たなデータ流通モデルの構築や、UGCとプロフェッショナルな編集力を融合させた次世代のIP運用エコシステムへの進化を志向している点においても一致しています。IP開発・出版DX・AIデータ流通・ファンコミュニティ形成などの領域において、KADOKAWAの編集・メディア力と、noteが有するトラフィック、SaaS基盤、UGCエコシステムを掛け合わせることで大きなシナジーが期待できると確信したことから、このたびの資本業務提携締結に至りました。

■協業内容

①IP創出・開発領域における連携

両社で連携することで、「note」からの書籍化を増やし、既存の出版プロセスにとらわれない、デジタル発の次世代コンテンツ開発の仕組みづくりを推進します。書籍以外にも、グッズやイベントを前提としたコンテンツ開発を行うことで、収益性の向上を図るとともに、新たな創作エコシステムの開発を目指します。また、「note」のメンバーシップ機能等を活用した作家の収益化支援に共同で取り組みます。

②出版DX領域における連携

KADOKAWAが保有するWebサイトの一部において「note pro」のSaaS基盤を活用し、運営体制の効率化とコストダウンを推進します。これにあわせて、「note」のプラットフォーム特性を活かしたSEOおよびAI検索からの流入強化を目指します。また、「note」に集まるさまざまなコンテンツのレビューや反響を出版・販促につなげるなど、新たなバリューチェーンの構築に取り組んでまいります。

③AIデータ流通領域における連携

noteが採択されている経済産業省主導の生成AI強化プロジェクト「GENIAC」等を通じ、AI時代における健全なデータ流通基盤の構築に向けて連携します。具体的には、著作権者に還元されるコンテンツ資産の公正な価値評価に基づく収益モデルの構築や、権利関係を明確にしたRAG（検索拡張生成）モデルの構築について共同で実証および検討を行います。

④ファンコミュニティ領域における連携

KADOKAWAグループが有する動画配信技術やノウハウを「note」のプラットフォームへ活用することについて協議・検討を推進します。「note」上での映像・音声配信を通じたクリエイターとファンのエンゲージメント深化を図るとともに、両社のプラットフォーム間での会員基盤の拡大と新たな収益機会の創出を目指します。

■コメント

note 代表取締役 CEO 加藤貞顕 氏

noteは「だれもが創作をはじめ、続けられるようにする」をミッションに、クリエイターが作品を発表し、届け、収益を得られるプラットフォームをつくってきました。今回、素晴らしい原作を多数つくり、マルチプラットフォームで作品を広げていくことを長年続けてきたKADOKAWAとご一緒できることはたいへん光栄です。

私はかつてKADOKAWAグループのアスキー（当時）に在籍していました。今回、ご一緒することになり、不思議な縁を感じています。両社で力をあわせて、AI時代にふさわしい創作の新しいエコシステムをつくっていきたいと思います。

KADOKAWA 取締役 代表執行役社長 CEO 夏野剛

日本最大級のUGCプラットフォームであるnoteとのパートナーシップ締結を、大変嬉しく思います。KADOKAWAが推進する「グローバル・メディアミックス with Technology」戦略において、noteから生まれる多様な才能や熱量は、次世代IPを創出する重要な源泉です。両社の強みを掛け合わせ、クリエイターの才能をこれまでにないスピードで世界へ届ける新たなエコシステムを、noteと共に構築してまいります。

■メディアプラットフォーム「note」について

noteはクリエイターが文章や画像、音声、動画を投稿して、ユーザーがそのコンテンツを楽しんで応援できるメディアプラットフォームです。だれもが創作を楽しんで続けられるよう、安心できる雰囲気や、多様性を大切にしています。個人も法人も混ざり合って、好きなものを見つけたり、おもしろいひとに出会えたりするチャンスが広がっています。2014年4月にサービスを開始し、約6,956万件の作品が誕生。会員数は1,114万人（2025年11月末時点）に達しています。

■KADOKAWAについて

出版、アニメ・実写映像、ゲーム、Webサービス、教育・EdTechなどの事業を展開する総合エンターテインメント企業です。世界中から才能を発掘して多彩なIP（Intellectual Property）を創出し、さまざまなメディアで展開。創出したIPをテクノロジーの活用により世界に届ける「グローバル・メディアミックス with Technology」戦略を掲げ、IP価値の最大化を推進しています。

<https://group.kadokawa.co.jp/>

■業績への影響

本件が当期の連結業績に与える影響は軽微です。

以上

【本件に関する報道関係からのお問い合わせ先】

株式会社KADOKAWA 広報部

pr-dept@kadokawa.jp